

自ら学び生きる力を高める子どもの育成

～「考え、伝え合い、自分の生き方を見つめる」道徳教育の充実を目指して～

心に響く道徳科の指導の工夫

第3学年 道徳科学習指導案(一部抜粋)

- 1 **主題名** だれに対しても公平に（中C 公正、公平、社会正義）
- 2 **教材名** ぼくのボールだ（出典 「生きる力3」 日本文教出版）
- 3 **ねらい** 不公平な態度が人を傷つけ、誰に対しても分け隔てなく接する態度が集団のみんなを笑顔にすることを理解し、公正、公平な態度で接しようとする心情を養う。
- 4 **本時の展開**

	児童の学習活動	主な発問（T）と児童の反応（C）	指導上の留意点
導入	1、「公平」とはどういうことなのかについて話し合う。	T 分け隔てをしないためには、どんなことに気を付ければよいでしょう。 C：優しい気持ちをもつ。 C：相手の気持ちを考える。	・分け隔てなく接するためにはどうしたらよいかを話し合い、本時で扱う道徳的価値への導入とする。
展開	2、教材「ぼくのボールだ」を読んで話し合う。	T どうして、「ぼく」は、まさしく人にボールを回したのでしょうか。 C：自分のチームが勝てるから。 T たかし君は泣き出したときどんなことを思ったでしょう。 C：何でぼくだけ取るの。投げたいのに。 T まわりのみんなは、僕やまさしく君、たかし君の様子を見てどんなことを思っているでしょう。 C：取ったのは良くない。 C：おかしいよ。 C：気持ちを聞くことが大事。 C：たかし君の投げたい気持ちを考えて。 C：なんでまさしく君にはかり投げるの。	・登場人物のイラストを用意し、教材の状況を把握させる。 ・たかし君の思いと主人公たちの思いの違いを考え、不公平にされたたかし君の思いに共感する。 ・ワークシートに書き込むことでじっくりと考えさせ、それを基にグループで話し合う。 ・友達の違いでなるほどと思えることは、積極的に自分の意見に取り入れることを促す。
	3、自分を振り返る。	T 分け隔てをしないことは、なぜ大切なのでしょう。 C：同じようにしたら構わないから C：みんなが楽しい気分。学校に行きたくなるから。 C：みんなが楽しい。いじめもあかん。嫌な気持ちになる。	・分け隔てをすることが周りに与える影響を考え、そのことがいじめなどにつながることを理解し、公平な集団をつかっていこうとする意欲を高める。
終末	4、学習を振り返る。		○本時の学習で感じたことや考えたことを記述させることで、自分自身の生活を見つめなおすきっかけとする。

ワークシートに記述したことを基にグループで話し合い、自分の考えを明確にしていく。

全校体制で取り組む道徳教育

1 内容項目の重点化を図る

日々の生活や生活アンケートなどを基に、児童の実態を踏まえ、道徳教育において重点的に指導する内容項目を設定した。重点化された内容項目は、道徳科において1年間で複数回取り上げて授業を行うとともに、道徳教育として全ての教育活動において意識的に指導を行っていく。また、学校便り等を通じて保護者等に対しても啓発を行っている。

全校児童で認め合い、自己有用感を高める取組

2 道徳教育全体計画及び別業、年間指導計画の作成

国・県・市の方針、本校の重点内容項目を基に道徳教育全体計画の見直しを行い改善を図った。全体計画に基づき、道徳科の年間指導計画を作成するとともに、各教科等との関連を示した別業を作成した。また、それぞれの計画には、これまで本校で取り組んできた人権教育との関わりを明確にし、それぞれを教員がつながりながら児童に豊かな心を育てていけるようにした。

3 考え、議論する道徳への質的転換

児童が道徳的価値や道徳的問題を自分との関わりで主体的に考え、友達との対話により自分の考えを明確にし、これまでの自分やこれからの生き方について見つめることができるよう指導方法について研究を進めた。
特に、一時間の授業で何を考えさせるかを明確にし、指導する内容項目及び発達の段階に応じたねらいを設定するように心がけた。教師から児童へ的一方通行的な授業ではなく、児童同士が意見を交流し、互いの意見に相違に気づき、自分の考えを明確にできるような指導を心がけた。自分の考えを互いに議論する活動は、道徳科だけでなく、各教科等の指導においても意識的に取り入れるとともに、考えの相違を認め合える学級集団づくりを心がけた。

なかま集会の様子

4 評価について

児童が自らの成長を実感し、更に意欲的に取り組もうとするきっかけとなる評価とするとともに、指導者の指導方法の改善・充実にもつなげていけるようにする。全学年において道徳ファイルを作成し、授業での学びを残していく。また、指導者自身も授業記録を残し、指導と評価の充実を図っていく。
指導要録だけでなく、通知表においても初めて評価を行うので、授業参観で道徳科の授業を全学年で公開するとともに、各学年の学年便り等において道徳科の授業の様子を掲載し、日頃から保護者に対して児童の道徳科の学びの様子を伝えていくようにする。

職員研修の様子

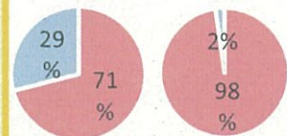
道徳ファイル

板書



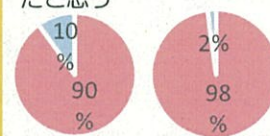
児童の変容（全校児童アンケートの結果より）

道徳の授業は大切だと思う



平成28年6月 平成30年10月

いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う



平成28年6月 平成30年10月

■ 肯定的回答
■ 否定的回答

道徳の授業が大切だと考える児童の意見

- ・一人では分からなかったことが、みんなで勉強するといろんな考えを聞いて、いっぱい勉強になるから。
- ・親切にする、ルールを守るとかは、今だけじゃなくて、大人になってからも大事だから。
- ・迷ったときとか友達とけんかしたときとか、道徳で勉強したことが生活でいかせるから。
- ・道徳で学んだことがみんなできたら、みんなうれしい気持ちになると思うから。

「特別の教科 道徳」 ファーストステップ



平成30年度から小学校及び特別支援学校小学部で、平成31年度から中学校及び特別支援学校中学部で「特別の教科 道徳」が実施されます。

本リーフレットは、新学習指導要領における道徳教育及び道徳科の目標や道徳科の指導上のポイント等についてまとめています。小学校における道徳科の授業や校内研修での活用はもとより、中学校においても道徳科の全面实施に向けた校内研修等で活用してください。

平成30年3月
奈良県道徳教育振興会議
奈良県教育委員会事務局学校教育課

道徳教育の目標

小学校学習指導要領解説 総則編P25～P31
中学校学習指導要領解説 総則編P24～P31



道徳教育は、教育基本法及び学校教育法に定められた教育の根本精神に基づき、自己（人間として）の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標とする。

【小学校学習指導要領 第1章 総則 第1の2の(2)2段目 より
()内は中学校】



道徳教育は、児童生徒がよりよく生きるための基盤となる道徳性を養うことを目標としており、児童生徒一人一人が将来に対する夢や希望、自らの人生や未来を拓いていく力を育む源となるものです。各教科等における道徳性を養う指導と道徳性を養うことを目標とする道徳科の指導、それぞれの役割を明確にし、道徳教育を推進していきましょう。

学校教育において道徳性は、道徳的判断力、道徳的心情、道徳的实践意欲と態度と捉えられています。道徳性は、一步一步、着実に養っていくことが大切です。各学校において、長期的展望に立ち、計画的な指導を行っていきましょう。

道徳教育 学校の教育活動全体を通じて道徳性を養う

〈各教科、外国語活動（小学校）、総合的な学習の時間、特別活動〉

各教科等の目標に基づき、それぞれに固有の指導を充実する中で道徳性を養う。

〈日常の学校生活や体験活動〉

日常の学校や学級生活における指導や豊かな体験の積み重ねを通して道徳性を養う。

〈道徳科〉

道徳諸価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して道徳性を養う。

道徳科では、児童生徒が、今後出会うであろう場面で、主体的に道徳的な行為ができるように指導を行っていきましょう。



道徳教育で養う道徳性の諸様相

道徳的判断力

様々な状況下において、人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力。

道徳的心情

道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情のこと。

道徳的实践意欲と態度

道徳的判断力や道徳的心情によって価値があるとされた行動を取ろうとする傾向性。

道徳教育の全体計画について

小学校学習指導要領解説 総則編P127～P132
中学校学習指導要領解説 総則編P128～P133

道徳教育の全体計画には、児童生徒、学校及び地域の実情を考慮した上で、学校の道徳教育の重点目標を設定するとともに、道徳科の指導方針、学習指導要領に示されている道徳科の内容との関連を踏まえた各教科等における指導の内容及び時期並びに家庭や地域社会との連携の方法を示します。

全体計画を一覧表にして示す場合は、必要な各事項について文章化したり具体化したりしたものを加えるなどの工夫が望まれます。例えば、各教科等における道徳教育に関わる指導の内容及び時期を整理したものを別業にして加えるなどして、年間を通して活用しやすいものとするのが考えられます。

各学校においては、道徳教育の目標を踏まえ、道徳教育の全体計画を作成し、学校長の方針の下に、道徳教育推進教師を中心に、全教員が協力して道徳教育を展開していきましょう。



道徳科の授業づくりのために

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編P78～P83
 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編P76～P83

授業を構想する際には、指導者自身が内容項目についてどのような考えをもっているのかを明らかにし、その考えによりこれまで児童生徒にどのように道徳教育を行って、現在どのような状況なのかを把握した上で、教材を生かす具体的な活用方法を工夫することが大切です。

授業づくりの手順として、道徳科の年間指導計画に基づき、ねらいの検討、指導の重点の明確化、教材の吟味、学習指導過程の構想の順に進めることが考えられます。

1 ねらいの検討

指導の内容や指導者の指導の意図を明らかにできるよう検討します。

道徳科の目標に示された学習に基づき、学習指導過程や指導方法を工夫することが大切です。

ねらいの記述の仕方

内容項目を基に、ねらいとする道徳的価値や道徳性の様相（道徳的判断力、心情、実践意欲、態度）を端的に表します。
 (例) 「～しようとする態度を育てる」
 「～しようとする心情を育てる」など



2 指導の重点の明確化

ねらいに関する児童生徒の実態と、各教科等での指導との関連を検討し、指導の要点を明確にします。

3 教材の吟味

児童生徒に考えさせたい道徳的価値に関わる事項がどのように含まれているかを検討します。

例えば、人物が登場する読み物教材の場合、教材の筋を追って登場人物の心情の変化を推し量るだけでなく、児童生徒に何を考えさせるのかという視点で教材を吟味することも大切です。



4 学習指導過程の構想

ねらい、児童生徒の実態、教材の内容などを基に、授業の展開を考えます。

学習指導過程を考える際は、児童生徒が、どのような問題意識をもって学習に臨み、ねらいとする道徳的価値を理解し、自己を見つめ、多様な感じ方や考え方によって学び合うことができるのかを具体的に予想しながら、授業全体の展開を考えましょう。



指導方法の工夫の例

道徳科においては、多様な指導方法があります。授業のねらい、児童生徒の実態、教材や学習指導過程等に応じて、最も適切な指導方法を選択し、工夫することが必要です。指導方法の工夫として以下のような例が考えられます。

教材提示の工夫

- 読み聞かせ
- 紙芝居
- 影絵
- 人形やペープサート

板書の工夫

- 思考の違いや多様さを対比的、構造的に示す工夫

発問の工夫

- 切実感のある発問
- 多面的・多角的に考えさせる発問

話し合いの工夫

- 座席の配置の工夫
- ペアでの対話
- グループでの話し合い

書く活動の工夫

- ワークシート
- 道徳ノート

動作化、役割演技等の表現活動の工夫

- 即興的な演技
- 動きや言葉の模倣
- その場に応じた身のこなし

説話の工夫

- 教員の体験や願い
- 日常の生活問題
- 新聞、雑誌、テレビなどで取り上げられた問題



道徳科の特質を生かした学習指導の展開

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編P78～P80
 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編P76～P79

道徳科の指導においては、児童生徒が道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、小学校においては自己の生き方について、中学校においては人間としての生き方についての考えを深めることで道徳性を養うという特質を十分考慮し、それに応じた学習指導過程や指導方法を工夫することが大切です。道徳科の学習指導過程には、特に決められた形式はありませんが、一般的には、以下のように、導入、展開、終末の各段階を設定することが広く行われています。

導入

主題に対する児童生徒の興味や関心を高め、ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる動機付けを図る段階

(学習活動例)

- ・ねらいに関わる生活経験の発表や話し合い
- ・教材の内容に関連した説明
- ・ねらいに関わる写真やアンケート結果などの提示

(発問例) 「身近にある決まりには、どのようなものがありますか。」
 「この人物を知っていますか。」



展開

ねらいを達成するための中心となる段階であり、中心的な教材によって、児童生徒一人一人が道徳的価値の理解を基に自己を見つめる段階

(学習活動例)

- ・児童生徒の実態と教材の特質を踏まえた発問に基づく話し合い
- ・動作化や役割演技等の表現活動に基づく話し合い
- ・自分の感じ方、考え方を整理するための書く活動
- ・自分自身の生活経験などを想起した話し合い

(発問例) 「～は～したとき、どんな気持ちだったのでしょうか。」
 「～は～したとき、どんなことを考えたのでしょうか。」
 「なぜ～は、～したのでしょうか。」
 「この人物のように考え、行動することができるでしょうか。」
 「この話からどのようなことを考えましたか。」
 「本当の思いやりとは何でしょうか。」
 「誰かに親切にして、自分も心が温かくなったことはありますか。」

話し合いでは、一人一人の児童生徒の発言を大切に、問い返しなどを行うことにより児童生徒の考え方や感じ方を深めましょう。



終末

ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することのよさや難しさなどを確認したりして、今後の発展につなぐ段階

(学習活動例)

- ・板書を利用した本時の学習の整理
- ・授業者自身のねらいとする道徳的価値に関わる説話
- ・ねらいとする道徳的価値に関わる名言やことわざ、詩、子どもの作文
- ・学習を通して考えたことや分かったことについての振り返り

(発問例) 「今日の授業について、改めて考えたこと、気付いたことを書きましょう。」
 「これから大切にしたい親切な行いについて、自分なりにまとめてみましょう。」



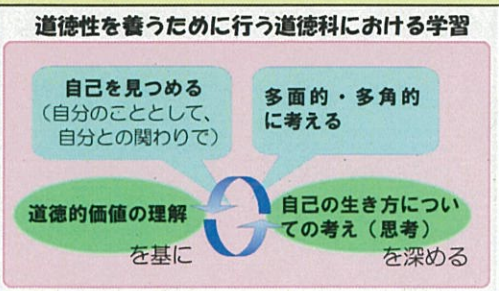
道徳科の評価

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編P105～P114
 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編P107～P116

道徳科の評価は、道徳科の学習活動における児童生徒の「学習状況や道徳性に係る成長の様子」を、年間や学期といった一定の期間で見取ります。そして、他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に認め、励ます個人評価として、記述式で表現します。併せて、指導者自身の指導を振り返り、改めて学習指導過程や指導方法について検討し、今後の指導に生かすことが大切です。

なお、普段の学校生活で見られる行動については、これまでどおり、指導要録の上では、「行動の記録」として記載する要素となります。

道徳科における評価



道徳科における学習活動は、左図で示すとおり、道徳的価値の理解を基に、自己を見つめたり、多面的・多角的に考えたりしながら、自己の生き方についての考えを深めることです。

道徳科の評価は、そのような道徳科の学習の中で見られた児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子について、「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか」、「道徳的価値の理解を自分との関わりで深めているか」といった点に注目して見取り、指導要録に記述します。

道徳科の授業における児童生徒の評価の視点の例

- 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているかどうか
- ・道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしている。
 - ・自分と違う立場や考え、感じ方を理解しようとしている。
 - ・複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしている。
- 道徳的価値の理解を自分自身との関わりで深めているかどうか
- ・読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしている。
 - ・現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直していることがうかがえる。
 - ・道徳的な問題に対して自己の取り得る行動を他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めている。
 - ・道徳的価値を実現することの難しさを自分のこととして捉え、考えようとしている。

道徳科において、児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子をどのように見取り、記述するかということについては、学校の実態や児童生徒の実態に応じて、指導者の明確な意図の下、学習指導過程や指導方法の工夫と併せて適切に考える必要があります。

道徳科の評価を行う際には、学習評価の妥当性、信頼性等を担保するために、学校として組織的・計画的に進めることが大切です。



例えば、以下のようなことが考えられます。

- ・評価のために集める資料や評価方法を学年ごとに明確にすること
- ・評価の視点等について共通理解を図ること
- ・評価に関する実践事例を蓄積し共有すること

道徳科の年間指導計画について

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編P T1～P T5
 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編P 69～P 73

年間指導計画とは、道徳科の指導が、道徳教育の全体計画に基づき、各教科等との関連を考慮しながら、児童生徒の発達の段階に即して計画的、発展的に行われるように組織された全年にわたる年間の指導計画です。



道徳科の年間指導計画を作成する際には、各学年段階の内容項目について、相当する各学年において全て取り上げることとなります。

道徳科においても、主たる教材として教科用図書を使用しなければなりません。道徳教育の特性に鑑みれば、各地域に根ざした地域教材など、多様な教材を併せて活用することが重要です。

〈年間指導計画の例〉

第6学年道徳科年間指導計画(主題等一覧表)

学年の重点目標

- 生命の尊さを理解し、かけがえない生命を精一杯生きようとする態度を育てる。
- 自らの行動に責任をもって自主的に行動しようとする態度を育てる。
- 相手の立場を尊重し、多様な見方や考え方が存在することを理解し、寛容な心を育てる。

月	主題名	内容項目	教材名	備考	各教科等との関連	人権教育との関連
9月	弱さを乗り越えて	A 善悪の判断、自覚、自由と責任	分かっているのに(出典 奈良県教育委員会 道徳教育読み物資料集)		体育(表現運動)	
9月	世界の平和のために	C 道徳的価値の理解、国際理解	関定の聖火ランナー(出典 東京書籍 明日をめざして)		国語(平和のとりでを築く) 社会(国々の充実をめざす日本と国際社会)	
9月	かけがえない命	D 生命の尊さ	INORI～祈り～(奈良県教育委員会 なかまとともに)		国語(やまなし) 理科(ヒトや動物の体)	
10月	自立的な生活	A 善悪の判断、自覚、自由と責任	学校旅行の夜(出典 東京書籍 明日をめざして)		国語(時計の時間と心の時間)	
10月	礼儀は心のあらわれ	B 礼儀	礼儀の心(出典 東京書籍 明日をめざして)		国語(生活の中の言葉) 社会(身に伝わる聖句の文化と人々のくらし)	
10月	日本人として	C 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度	日本人(出典 東京書籍 明日をめざして)		国語(「イーハトーブ」の夢) 音楽(越天楽今様) 図画工作(葉をまき)	
10月	生命の尊重	D 生命の尊さ				

道徳科の授業と関連する各教科や人権教育など様々な教育活動との関連を示すことで、道徳科の指導が道徳教育の要として機能するよう工夫することが大切です。

道徳の授業を実施したときの課題等を備考欄に記入するなどして、年間指導計画の改善のための資料を残していきましょう。

年間指導計画の様式には、様々なものが考えられますので、各学校において活用しやすい様式を工夫しましょう。例えば、上図に示した主題等一覧表は、一年間の指導の流れが一目で分かります。その場合、各時間のねらいや学習指導過程などを含む指導の概要が分かる右図のようなものを加えることが求められます。

〈年間指導計画の内容の例〉

- 指導の時期 □主題名
- ねらい □教材
- 主題構成の理由
- 学習指導過程と指導の方法
- 他の教育活動等における道徳教育との関連
- その他(保護者や地域の方の参加・協力の計画等)



年間指導計画に基づく授業を一層効果的に行うためには、年間指導計画の評価と改善を行うことが大切です。



第6学年 年間指導計画

実施日	○月 ○日
主題名 内容項目	弱さを乗り越えて A 善悪の判断、自覚、自由と責任
ねらい	他者や自分自身に対する責任を果たすことの大切さに関わり、自覚的で責任のある行動を取ろうとする実践意欲を高める。
教材名 出典	分かっているのに 道徳教育「読み物資料集」 県教育委員会
主題構成の理由	軽い気持ちで他者を中傷する書き込みをネット掲示板に行った友達を止められない主人公の弱さと、母の励みでその弱さを克服していく主人公の動きを中心に話し合うことで、自分自身の行いに対する責任を果たすことの大切さに関わらせている。
学習指導過程(指導の方法)	○何も言えず、じつと画面を見つめながら、ミュキはどんなことを考えていたでしょう。 ○母の言葉と笑顔から、ミュキは母がどんな思いを自分に伝えていると感じたでしょう。 ○マキの手をつかんで「やっぴりだめだよ」と言ったとき、ミュキはどんなことを思っていたでしょう。(ワークシートに自分の考えをまとめ、全体で話し合う。) ○ミュキが果たした責任は、誰に対してのものだと考えますか。(グループで話し合い、全体で交流する。)
授業についての児童アンケート	あてはまる(人) ややあてはまる(人) あまりあてはまらない(人) あてはまらない(人)
児童の発言を参考にし、考えを深めることのできる	
成果と課題	

道徳科の目標

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編P16～P20
 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編P13～P18



道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、**道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を（物事を広い視野から）多面的・多角的に考え、自己（人間として）の生き方についての考えを深める学習**を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

【小学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳 第1 目標 より内は中学校】



道徳科は、児童生徒一人一人が、学習のねらいに含まれる道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、内面的資質としての道徳性を主体的に養っていく時間です。

道徳科における学習

道徳的諸価値について理解する

道徳的価値の意義や大切さを理解するとともに、道徳的価値が人間らしさを表すものであることに気づき、価値理解と同時に人間理解や他者理解を深めることです。



価値理解：道徳的価値を人間としてよりよく生きる上で大切なことだと理解すること

人間理解：道徳的価値は大切であっても実現することが難しい人間の弱さなどを理解すること

他者理解：道徳的価値を実現したり、実現できなかったりするときの感じ方、考え方は多様であることを理解すること

自己を見つめる

これまでの自分の経験やそのときの感じ方、考え方を想起し確認することを通して道徳的価値に関わる自分の現状を認識し、道徳的価値についての考えを深めることです。

物事を多面的・多角的に考える

児童生徒が多様な価値観の存在を前提にして、他者と対話したり協働したりしながら、物事を一面的に捉えるのではなく、様々な視点から多面的・多角的に考えることです。

自己の生き方についての考えを深める

道徳的価値の理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えることを通じて形成された道徳的価値観を基盤として、自己の生き方についての考えを深めていくことです。

これらの学習を通して

道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる

「特別の教科 道徳」の実施に向けて

道徳教育と道徳科

平成27年3月27日の小学校学習指導要領、中学校学習指導要領及び特別支援学校小学部・中学部学習指導要領の一部改正により、道徳教育に関わる規定が、学習指導要領「第1章 総則」に示され、道徳科が学習指導要領「第3章 特別の教科 道徳」に既に位置付けられています。道徳教育は「学校の教育活動全体を通じて行われるもの」であり、道徳科が各教科等で行われる道徳教育の要として位置付けられることは、今までと変わりません。

道徳教育と道徳科の関係



今回の学習指導要領の改訂でも、左図で示すとおり、道徳教育が道徳性を養うこと、その要となるものが道徳の授業であることはこれまでと変わりません。改訂によって改善されること、引き継がれることを確認し、学校全体で取組を進めていきましょう。



道徳教育は、道徳科はもとより、各教科等のそれぞれの特徴に応じて、適切に行います。その中で、道徳科は各活動における道徳教育の要として、それらを補ったり（補充）、深めたり（深化）、相互の関連を考えて発展させたり統合させたり（統合）する役割を果たすことになります。

検定済教科書の導入

小学校では平成30年度から、中学校では平成31年度から、検定済教科書が道徳の授業の主たる教材になります。補助教材として、県教育委員会が作成した教材や文部科学省が作成した教材なども活用することができます。

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編P100～P104
 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編P102～P106

評価について

道徳科では、数値による評価ではなく、教員が児童生徒の成長を見守り、努力を認めたり、励ましたりすることによって、児童生徒が自らの成長を実感し、さらに意欲的に取り組もうとするきっかけとなる評価を目指しましょう。

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編P105～P114
 中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編P107～P116

「考える道徳」、「議論する道徳」への転換

「考える道徳」、「議論する道徳」が目指す授業とは、子どもが道徳的価値及びそれに関わる事象を自分との関わりで主体的に考え、話し合いなどにより多様な感じ方や考え方や出会う中で自分の考えをより明らかにしていく授業です。他者との関わりの中で児童生徒が自らを振り返って成長を実感し、これからの課題を明確にし、新たな目標がもてるように授業を構想していきましょう。

道徳教育推進に役立つWebページ

奈良県教育委員会 「使える」道徳教育指導資料 道徳教育読み物資料集、道徳教育「奈良県郷土資料」等 <http://www.pref.nara.jp/18608.htm>

奈良県教育委員会 まなび一奈良 道徳教育全体計画例、県主催の説明会等の配付資料等 <http://www.nps.ed.jp/ouen/NweFaq/16/>

文部科学省 道徳教育アーカイブ 授業映像、指導案、いじめに関する授業実践等 <http://doutoku.mext.go.jp>

文部科学省 私たちの道徳 掲載ページ 私たちの道徳及び指導資料、心のノート等 http://www.mext.go.jp/a_mnu/shotou/doutoku/

